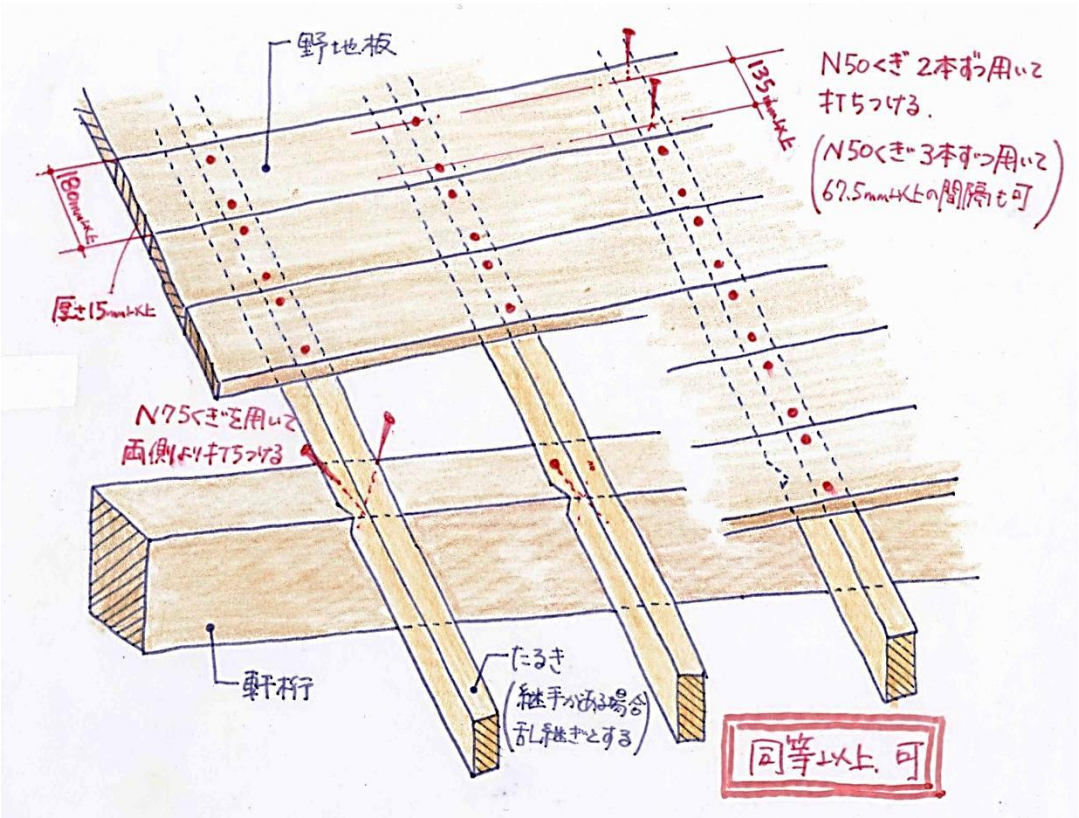
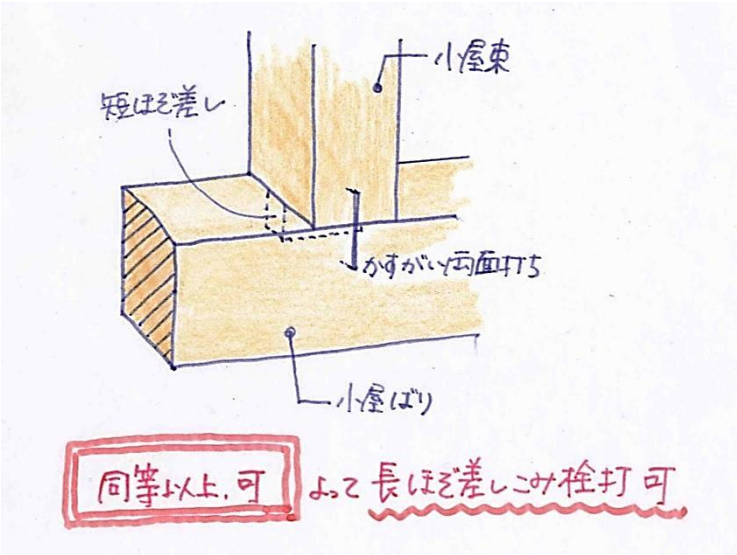
床組及び小屋ばり組に木板その他これに類するものを打ち付ける基準を定める件の一部を改正する告示（令和５年国土交通省告示第 229 号）

三　小屋ばり組の軒桁に対して、たるき（N50 を 135mm 以上の間隔で２本ずつ用いて、野地板（厚さ 15mm、幅 180mm 以上）を打ち付けるもの）を、その両側面から N75 を用いて打ち付けるとともに、小屋ばりに対して、小屋束を、短ほぞ差し及びかすがい両面打ちにより緊結すること又はこれと同等以上の耐力を有するようにすること。





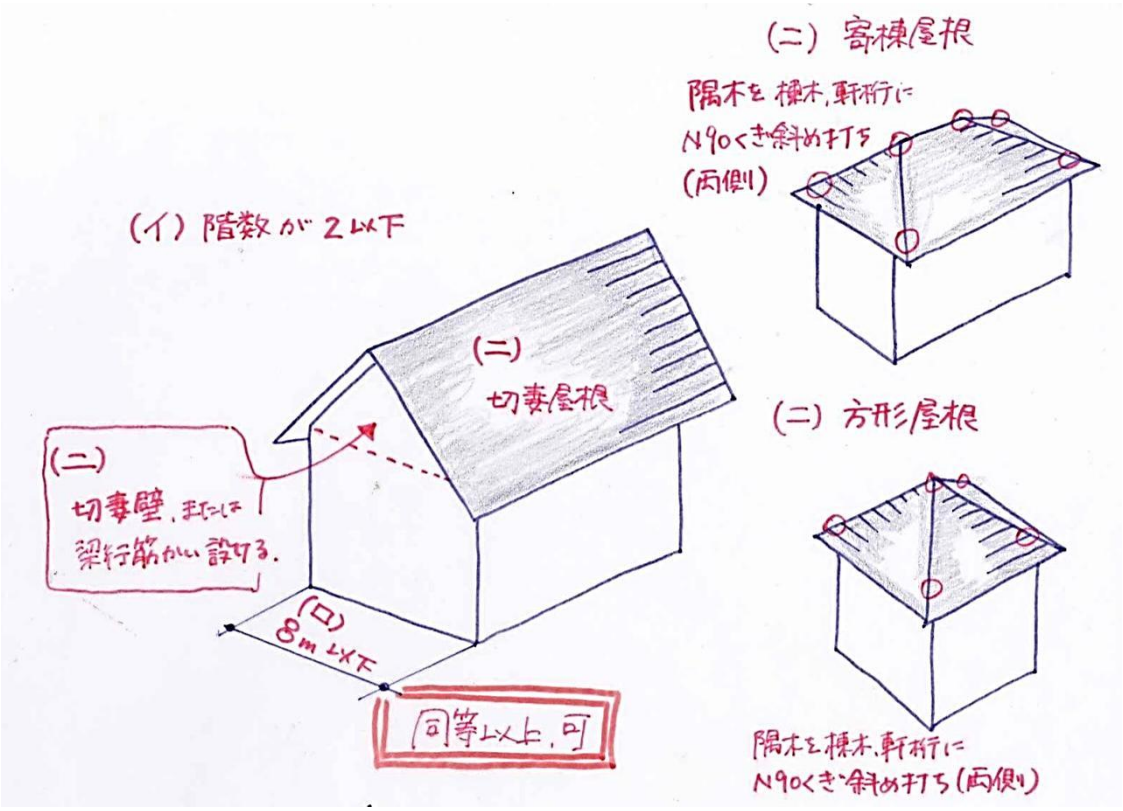
小屋ばり組の条件

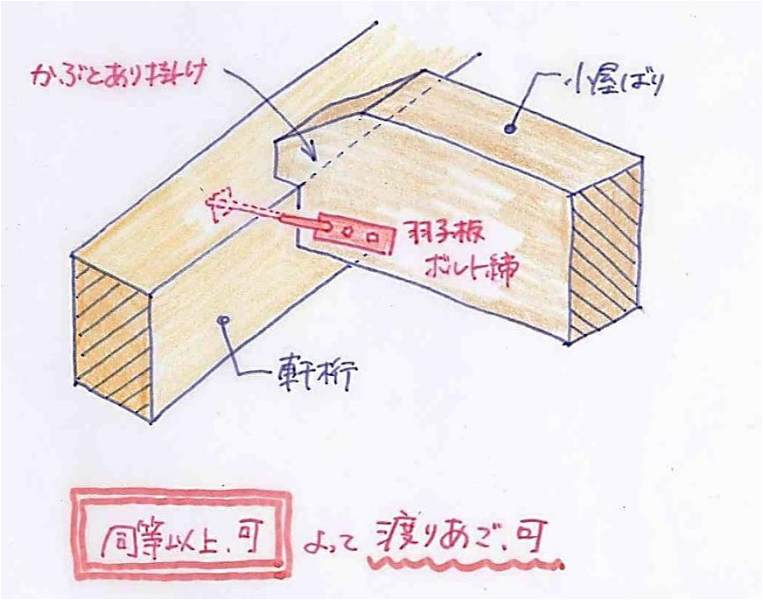
イ　小屋ばり組を設ける建築物の階数が２以下であること。

ロ　小屋ばりの長さが 8m 以下であること。

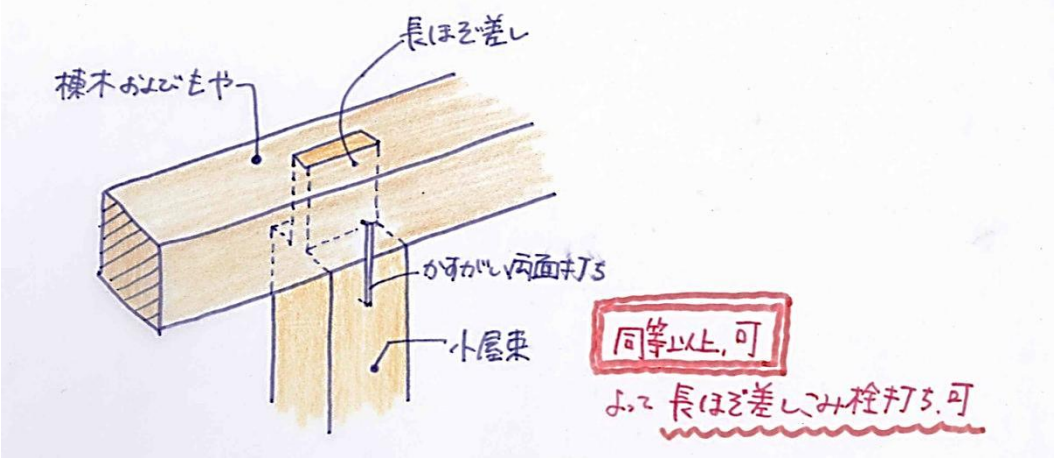
ハ　小屋ばりと軒桁は、かぶとあり掛け及び羽子板ボルト締めにより緊結すること。

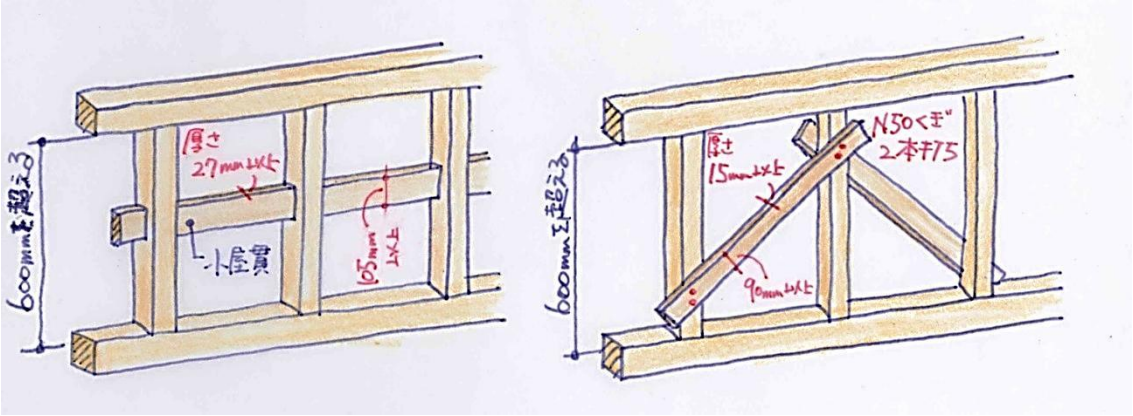
二　小屋張り組に係る屋根の形式は切妻屋根（小屋組に切妻壁または梁行筋かいを設けたものに限る）とすること。



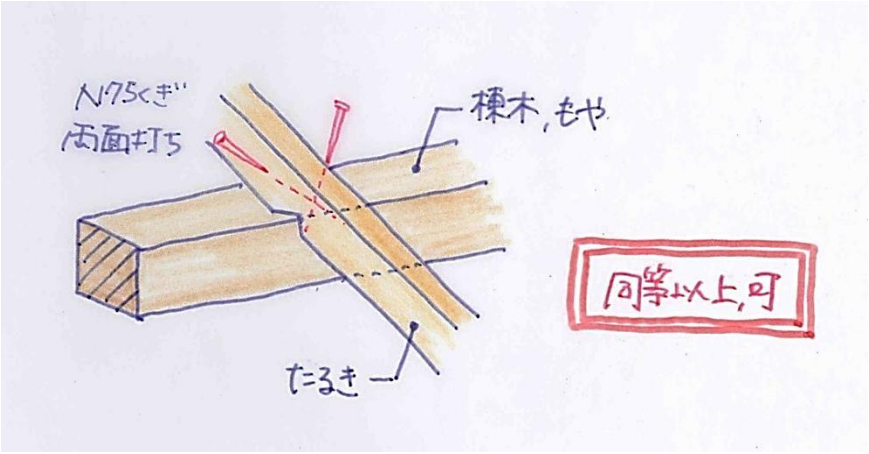


ホ　小屋束に対して、棟木及びもやを、長ほぞ差し及びかすがい両面打ちにより緊結すること。ただし、小屋束に接する横架材の相互間の垂直距離が 600mm を超える場合にあっては、小屋組の桁行方向に、厚さ 27mm 以上、幅 105mm 以上の小屋貫又は厚さ 15mm、幅 90mm 以上の桁行筋交い（N50 を２本以上用いて小屋束に打ち付けるもの）を設けること。

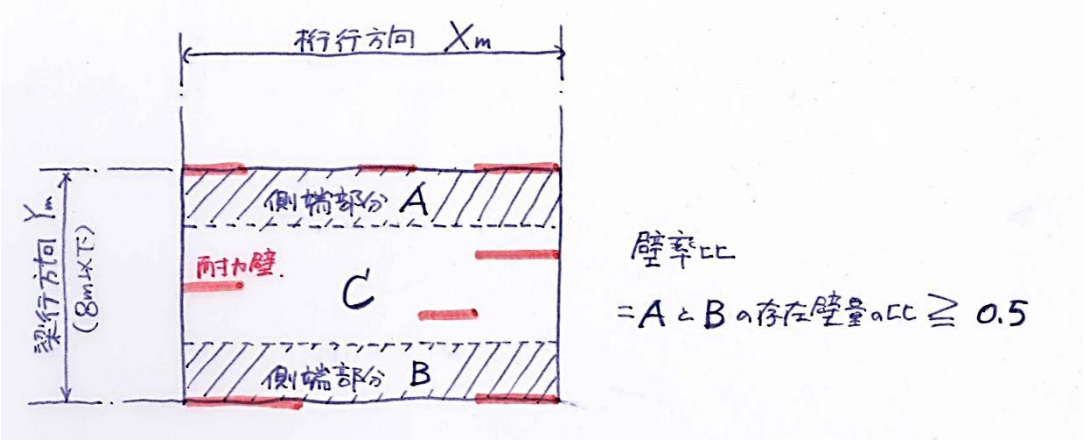




ヘ　小屋ばり組に緊結するたるきを、棟木及びもやに対して、その両側面から N75 を用いて打ち付けること。

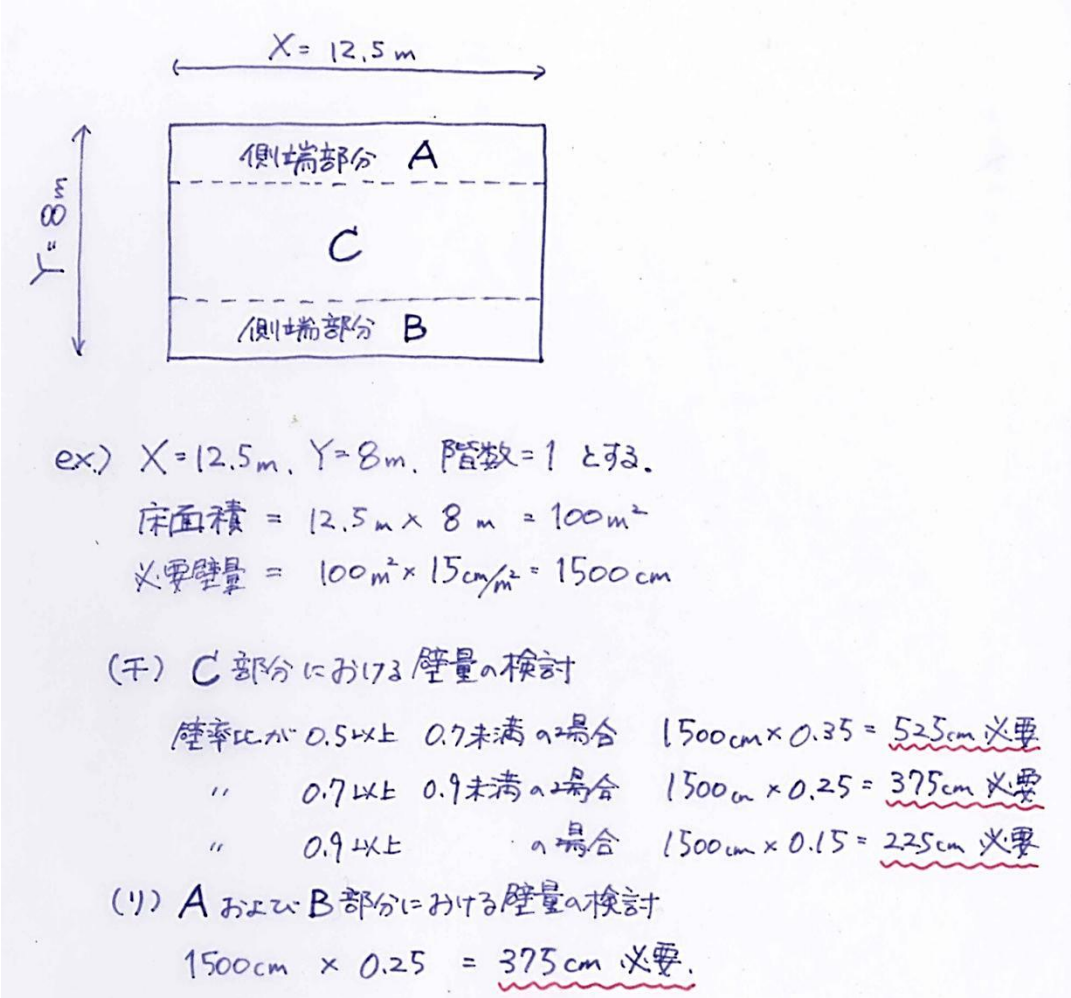


ト　小屋ばり組が接する階の桁行き方向の壁率比が 0.5 以上であること。



チ　小屋ばり組が接する階の、張り間方向の両端からそれぞれ４分の１の部分を除いた部分について、存在壁量が、必要壁量に表に掲げる数値を乗じて得た数値以上となること。

リ　小屋ばり組が接する階の、桁行方向の各側端部分のそれぞれについて、存在壁量が必要壁量に 0.25 を乗じて得た数値以上となること。



小屋ばりの長さ	建築物の桁行方向の側端部分を除いた部分に必要な壁量の割合					
	階数が１の建築物			階数が２の建築物		
	桁行方向の壁率比が０．９以上の場合	桁行方向の壁率比が０．７以上０．９未満の場合	桁行方向の壁率比が０．５以上０．７未満の場合	桁行方向の壁率比が０．９以上の場合	桁行方向の壁率比が０．７以上０．９未満の場合	桁行方向の壁率比が０．５以上０．７未満の場合
４ｍ以下	0	0	0.05	0	0.1	0.2
６ｍ以下	0.05	0.15	0.25	0.15	0.25	0.35
８ｍ以下	0.15	0.25	0.35	0.25	0.35	0.4